

今月の
テーマ

生きるために必要な知識と行動力 (その1)

世の中には、どうあっても変えられないことと、自身の行動で変えられることが存在する。先月号では「格差社会」を取り上げたが、その格差自体も物理的に不可避なことだけではないような気がする。勿論、生まれ育った環境や家庭の経済力など、スタート時点で与えられているもの等の違いがあるのも事実だ。しかし、現実には無いものを憂いても仕方がないし、どうしたらこの先を変えていけるかを考えねばならない。それが出来るか否かは、変えたいとの「想いがあるか」が全てだ。

今月号のタイトルを、「生きるために必要な知識と行動力」と題した。何か仰々しささを感じる、その実、そう面倒くさい内容ではない。お互い、より良い生活を送るためにも一緒に考えてほしい。「いい加減なこと言うな! それぞれに事情があつてのことだ」とお思いの方もいると思うが、何も全てを自分の時いた種だと言うつもりは毛頭ない。暮らしにおける様々な相談を受ける中で、それらが起きた問題の背景やそれぞれが取った行動の延長線上に見えてくるものがある。事が起きる前に、「あの知識があれば」、「こんな行動をとってれば」と思えることが山ほどあるからだ。「その損失を防ぐことができたのに」、「トラブルに巻き込まれずに済んだのに」、「もっと大きな利益を得られたのに」、「もっとお得な方法があつたのに」、ののにと思うことが少なくない。結果論だけ並べ立て、あとから言うのは簡単だと思われるかもしれないが、その結果は防げたはずだからこそ強調しなければならない。

これらのことは、何も金銭的な問題だけではない。自身の健康上の問題にしたってそうだ。「なんでこうなるまで放っておいたんですか...?」とドクターに叱られる方も少なくない。ずっと前から健康診断等での数値が異常で再検査などの指摘を受けていたにも拘らず、その現実から目を背けてきたご同輩も少なくない筈だ。そう、そこの貴方もですヨ。もとい、今月は「金融リテラシー」を深掘りしてみよう…。

つぶやき
がんちゃん

生活知恵袋

生活に何かと役立つ連載コラム

せいかつちえぶくろ

Vol. 132

● 金融リテラシーは何故必要?
今回のテーマ「生きるために必要な知識と行動力」は、言い換えれば金融リテラシーそのものだ。2008年9月、アメリカ合衆国の投資銀行であるリーマン・ブラザーズ・ホールディングスが経営破綻したことに端を発して、金融機関は巨額の損失を被り、連鎖的に世界規模の金融危機が発生した。これをきっかけとして、金融教育の必要性が世界的に叫ばれている。金融機関の規制が強化されるとともに、借りる個人の「金融リテラシー」の問題も指摘され、金融教育の必要性は急激に高まることとなったのである。キャッシュレスや金融の多様化が進む中、金融商品はますます複雑化し、不意な利用には思いもかけないリスクが潜んでいる。それらの損失を未然に回避し、より良い生活を送るためにも「金融リテラシー」を高めることは必須であり、かつ急務と言える。2016年の金融広報中央委員会による「金融リテラシー調査」の結果を世界諸外国と比べると、日本における「金融リテラシー」のレベルは10%程低いという実態が見えてきた。日本の競争力が危ない…。改めて「金融リテラシー」を高める努力が必要なのである。



つぶやきがんちゃん



齋藤 廣勝 (さいとう ひろかつ)
株式会社トータルライフサポート代表取締役
・CFP、サーティファイドファイナンシャルプランナー
・I級ファイナンシャルプランニング技能士
・日本商工会議所 年金・退職金等認定講師
・住宅ローンアドバイザー
・金融広報アドバイザー

こちら

保険と暮らしの相談センター

“生命保険でこんなお悩みはございませんか!?”

- ◆ 保険の見直しを検討している
- ◆ 加入している保険が本当に良いのかわからない
- ◆ 更新時期が近く、保険料がアップしてしまう
- ◆ 将来の子供の教育費が心配

相談は無料!!
納得いくまで相談できます。

お気軽にご相談ください。

株式会社 トータルライフサポート
total life support 募集代理店

〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22
● 営業時間 / 9:30~18:00
(土・日・祝日は9:30~17:00)
● 定休日 / 水曜日

TEL 018-827-7611
FAX 018-827-7610
URL http://tls-akita.co.jp




● 紳士服のコナカ
● エネオス
● すずきクリニック
● 当店
● マクドナルド
● 洋服の青山

詳細はホームページでもご覧いただけます。

●金融リテラシーとは何者…?

「リテラシー(Literacy)」とは、基礎力や理解力、応用力といった意味で、「金融リテラシー」は、お金に関する知識や判断力のことを意味する。リーフレット「最低限身に付けるべき金融リテラシー」(※)として、4分野15項目に集約されている。

4 外部の知見の適切な活用

(15)金融商品を利用するにあたり、外部の知見を適切に活用する必要性の理解

※大きくて見やすいリーフレットのダウンロードは二次元バーコードかURLよりどうぞ



<https://www.fsa.go.jp/news/25/sonota/20131129-1/01.pdf>

最低限身に付けるべき金融リテラシー

<p>1 家計管理</p> <p>(1)適切な収支管理(赤字解消・黒字確保)の習慣化</p> <p>(2)ライフプランの明確化及びライフプランを踏まえた資金確保の必要性の理解</p>	<p>3 金融知識及び金融経済事情の理解</p> <p>【金融取引の基本としての素养】</p> <p>③契約にかかる基本的な姿勢の習慣化 ④情報の入手先や契約の相手方である業者が信頼できる者であるかどうかの確認の習慣化(だまされない) ⑤インターネット取引は利便性が高い一方、対面取引の場合とは異なる注意点があることへの理解</p> <p>【金融分野共通】</p> <p>⑥金融経済教育において基礎となる重要な事項(金利(単利、複利)、インフレ、デフレ、為替、リスク・リターン等)や金融経済情勢に応じた金融商品の利用選択についての理解 ⑦取引の実質的なコスト(価格)について把握することの重要性の理解</p> <p>【保険商品】</p> <p>⑧自分にとって保険でカバーすべき事象(死亡・疾病・火災等)が何かの理解 ⑨カバーすべき事象発現時の経済的保障の必要性の理解</p>
<p>2 生活設計 ライフプランを立てる</p>	<p>【ローン・クレジット】</p> <p>10住宅ローンを組む際の留意点の理解 ①無理のない借入限度額の設定、返済計画を立てることの重要性 ②返済を困難とする諸事象の発生への備えの重要性 11無計画・無謀なカードローンやクレジットカードの利用を行わないことの習慣化</p> <p>【資産形成商品】</p> <p>12人によってリスク許容度は異なるが、仮により高いリターンを得ようとする場合には、より高いリスクを伴うことへの理解 13資産形成における分散(運用資産の分散・投資時期の分散)の効果の理解 14資産形成における長期運用の効果の理解</p>



最低限身に付けるものとしては結構な数ではあるが、私たちが「安心して暮らしていくために必要なもの」と考えるなら、何とか身に付けたいものだ。これらを今後数回に渡ってひとつずつ「がらん流」に「細解いていこう」。

●家計管理

第一の分野「家計管理」には、「適切な収支管理(赤字解消・黒字確保)の習慣化が必要」とあるが、皆さんはいかがだろうか？例によって「管理」することは何かを辞書で調べてみたら、「何らかの基準に対してそこから外れないように物事を統制すること、あるいは、ある目的に対して何かを維持・発展させること」とあった。「何らかの基準」を家計管理にあてはめるとなれば、前提条件として目標や目的がそれにあたり、第二の分野の生活設計にかかってくる。つまりは将来のライフイベントや目標・目的に沿った収支の管理・習慣化をせねばならないということだ。とは言っても、言葉で言うように簡単な話ではない。子供の進学に伴う教育費の支出と住宅ローンの返済が重なる時期は、多くの世帯で収支が赤字になってしまう。また、共働き世帯では、妻の出産や育休などで収入が減少する時期でもある。しかし、これらは想定が付くものであったはずで、その時期に向けた準備をしてきたかどうかだ。それ以外にも、車の買い替え時期や住宅の修繕費は、たまたま退職後に不足する生活費などなど、多くの問題は見通せるものだ。単年度の収支の全てが黒字という訳にはいかないが、それに向けて準備したものを取り崩してバランスを取っていかねばならない。家計管理とは、決まった収入から日々の生活をやりくりし、今後に予定されるライフプランの資金や不測の事態への備えを準備するものだ。そのためには、まずは収支の把握から始めなければならぬ。そこから将来収支のつじつまが合うように管理することが必要なのである。くれぐれも「キリギリス」のような顛末にしてはならない。そうならないようにするのが家計管理だ…。



●では何から始める?

家計管理の手始めは、とにかくにも収支を把握しなければならない。収支を把握するには、家計簿を付けることが近道なのは言うまでもないが、私の知る限りでは極めて少数だ。家計簿と聞くと、「面倒くさそう」と、つい構えてしまう人もいるだろうが、付け方に決まったルールはない。継続することが重要であり、自分のやりやすい形でのだ。少し乱暴な言い方かもしれないが、私は家計簿自体が大きな意味を持つとは考えていない。中には、付けることに労力を費やしているものの、記録のための記録になっていて将来計画に生かされていないケースさえある。自分に必要な費目が無かったり、逆に不要な費目が多かつたりすると、家計簿と向き合うのが辛くなり、活用されにくくなってしまふ。家計管理のポイント、収入と支出と貯蓄の動きが分かることだ。特に支出については重要であるが、最初の支出費目はあまり細かくせず、住宅費(家賃・住宅ローン)、食費、水道光熱費、通信費、教育費、保険料、雑費などとざっくりでもよく、その後、必要に応じて細分化していけばいい。まずは出来ることからスタートし、つまずいたら信頼できる専門家(FPなど)の力を借りてほしいのだ。



●来月号は

「金融リテラシー」の第2分野「生活設計」を考えてみよう。